生誕160年没後100年
開館10年記念
「鷗外100年の森へ」

森鷗外に近づく100選

文京区立森鷗外記念館スタッフがおすすめする鷗外作品、鷗外に関連した親しみやすく、手に入りやすい書籍を集めたブックリストです。2022年3月現在、復刊予定含む

森鷗外（1862年～1922年）

本名　森林太郎。現在の島根県津和野町に生まれる。幼いころから漢籍や論語を学び、10歳で父とともに上京。東京大学医学部の前身である東京医学校予科に入学し、1881年に東京大学医学部を卒業し、陸軍に入り軍医となる。その後調査と研究のためにドイツへ留学。帰国後は軍医として勤めながら、小説・戯曲・詩歌などの創作、翻訳や評論を発表。1907年、陸軍軍医総監・陸軍省医務局長に就任。1916年、陸軍を退き翌年から帝室博物館総長兼図書頭の職につき、亡くなるまで仕事を続けた。

文京区立森鷗外記念館
Mori Ogai Memorial Museum
2022年 開館10周年

https://moriogai-kinenkan.jp

森鷗外を感じる

身近な人のエピソードに覗く普段の森鷗外

父の帽子
森茉莉／講談社文芸文庫／1,320円
父・鷗外について書いた、日本エッセイストクラブ賞受賞の随筆集です。濃密な文章で書かれた子供の頃の思い出は圧巻です。

宮芳平自伝　森鷗外に愛された画学生M君の生涯
宮芳平[著]／堀切正人[編・注]／求龍堂／1,980円
鷗外は宮芳平をモデルに『天寵』という作品を書き、宮芳平はその時の思い出と『天寵』の抜粋をコラージュさせながら自伝を書いています。

犬のはなし　古犬どら犬悪たれ犬
出久根達郎[選]／日本ペンクラブ[編]／角川文庫／572円
長女・森茉莉、次女・小堀杏奴の書いた犬の話（茉莉『犬たち』、杏奴『思出』）を収録。子どもたちからみた父・鷗外の様子が興味深い1冊です。

まざあ・ぐうす
北原白秋[訳]／スズキコージ[絵]／復刊ドットコム／6,050円
北原白秋から『まざあぐうす』を贈られた鷗外は、それを次女・杏奴に贈ったそうです。森家の子どもにもなじみ深い？北原白秋版まざあぐうす。

木下杢太郎随筆集
木下杢太郎[著]／岩阪恵子[選]／講談社文芸文庫／1,980円
鷗外と同じく医学者で作家・木下杢太郎の随筆集です。収録の鷗外略伝『森鷗外』は、鷗外を学びたい方なら必読です。

鷗外先生　荷風随筆集
永井荷風／中公文庫／1,100円
鷗外を敬愛した荷風の鷗外論が詰まった一冊。鷗外とその作品の魅力や観潮楼での記憶を、情緒溢れる文章で語っています。

文豪の暮らし

文豪たちの暮らしぶりが窺える本、作品が生まれる背景が覗けるかも

文豪の家
高橋敏夫、田村景子[監修]／エクスナレッジ／1,760円
文豪の家から文豪が見えてくるグラビア本。鷗外の三つの家を紹介、原稿や遺品の写真が満載です。

文豪の死に様
門賀美央子／誠文堂新光社／1,650円
一葉、鷗外、芥川、荷風など10名をとりあげ一人ひとりディープに語りつくします。

文豪たちの住宅事情
田村景子[編著]／小堀洋平、田部知季、吉野泰平[著]／笠間書院／1,980円
鷗外、漱石、藤村など文豪たちの家について作品から綴った1冊。鷗外は『普請中』を読み解きます。

森家の遺伝子

恋人たちの森
森茉莉／新潮文庫／649円
表題作は、田村俊子賞受賞した小説作品。茉莉は父・鷗外に読ませたかったといいます。

私の美の世界
森茉莉／新潮文庫／605円
食・文学・ファッション・エンタメと様々なものに関心を移しながら、鷗外の長女・茉莉のチャーミングな暮らしぶりが、彼女特有の美麗な表現で描かれています。あらゆるものから「美」を見出す、茉莉の贅沢な感性が楽しめます。

ノックの音が
星新一／新潮文庫／539円
『ノックの音』で始まるショート・ショート集。中学生の時、行き帰りの電車でどきどきしながら読みました。短編小説に傑作が多いと言われる鷗外とつながります。読み直したいと思います。※星新一は森鷗外の姪孫

贅沢貧乏
森茉莉／講談社文芸文庫／1,430円
語っても語りつくせないと言わんばかりの文章に、何度も息切れしました。でもところどころに「自分かも」を発見。そして、最後は茉莉を愛おしく感じます。鷗外と向き合うようになって思います。茉莉の潔い感性が、安寿やいち、佐代、五百、たかといった鷗外作品の中で颯爽と生きる女性たちにつながっているのかもしれないと。

甘い蜜の部屋
森茉莉／ちくま文庫／1,320円
鷗外の長女・茉莉が10年かけて書いた長編小説です。泉鏡花賞を受賞しました。魅惑的で無垢な少女モイラにひかれる男性達の物語です。

ボヴァリー夫人
フローベール[著]／山田爵［訳］／河出文庫／1,210円
鷗外も翻訳したことのあるフローベール。作品は違いますが、同じ作家の翻訳を孫である山田爵さんも手掛けていたことが興味深い。

女体についての八篇　晩菊
安野モヨコ[選・画]／中公文庫／638円
人気漫画家・安野モヨコが「女体」をテーマに選出した近代小説8篇が収録されています。安野描き下ろしによる挿絵が、作品に一味違う魅力を与えてくれます。森茉莉『曇った硝子』収録。

黒猫ジュリエットの話
森茉莉[著]／早川茉莉[編]／河出文庫／814円
黒猫ジュリエットの目線から飼い主牟礼魔利（著者と思われる）にツッコミを入れまくる私小説。著書の父・鷗外も欧外としてたびたび登場。

D0121042

森鷗外を探して

森鷗外や鷗外作品を垣間見ることができるかも

日本文学盛衰史
高橋源一郎／講談社文庫／1,210円
鷗外を始めとする近代日本文学黎明期の作家たちの繋がりや、文学史への理解が深まる、かも？？

松本清張傑作短篇コレクション　上
松本清張[著]／宮部みゆき[責任編集]／文春文庫／880円
『或る小倉日記伝』『削除の復元』の鷗外もの２作が読める1冊。そのほかの短編も面白く、且つ宮部みゆき推薦文も読める。贅沢な1冊です。

新釈　走れメロス　他四篇
森見登美彦／角川文庫／572円
鷗外『百物語』など近代作品5作が現代小説としてよみがえります。

鷗外の婢　松本清張プレミアム・ミステリー
松本 清張／光文社文庫／770円
鷗外が現福岡県北九州市の小倉赴任中にお手伝いさんがよく変わったことに注目して書かれた中篇。清張ならではの展開をお楽しみに。

パスティス　大人のアリスと三月兎のお茶会
中島京子／ちくま文庫／704円
鷗外『普請中』をもとにした『腐心中』や『寒山拾徳』などを収録した小説集です。

類
朝井まかて／集英社／2,090円
森鷗外の末子・類の生涯を元にした小説。恵まれた境遇の中で幸福や葛藤がキラキラしています。

本心
平野啓一郎／文藝春秋／1,980円
母の自由死を許せなかった主人公が、母の事故死後に出会った人々を通して考える母と死について。平野版『高瀬舟』論にも読める1冊です。

鷗外青春診療録控　千住に吹く風
山崎光夫／中央公論新社／1,870円
若き日の鷗外を描いた小説です。父、静男、その背を見て悩みながら進む鷗外が書かれています。

奏鳴曲　北里と鷗外
海堂尊／文藝春秋／2,200円
『チームバチスタの栄光』を書いた海堂尊による一冊。医師としての二人を対比しながら生涯を辿ります。読み応えあり！

鷗外と海外文学

実は鷗外も翻訳していた海外文学を現代語訳で紹介

人形の家
イプセン[著]／矢崎源九郎[訳]／新潮文庫／473円
鷗外は、人形の家を『ノラ』というタイトルで翻訳しています。

即興詩人（上）（下）
アンデルセン[作]／大畑末吉[訳]／岩波文庫／（上）858円／（下）1,012円
名訳と言われる鷗外『即興詩人』ですが、文語文が苦手な方は、一度現代語で読んでみてください。そのあと、鷗外訳を読むとお話の流れが分かり文章の美しさが堪能できます。

シェイクスピア全集　3　マクベス
シェイクスピア[著]／松岡和子[訳]／ちくま文庫／770円
例えば冒頭の魔女の台詞を原語、鷗外訳、その他の訳と並べると、キャラクターが全く違って見えます。戯曲は俳優が台詞として声に出した時のことを想像しながら読んでも面白いかもしれません。

冷たい心臓　ハウフ童話集
ヴィルヘルム・ハウフ[作]／乾侑美子[訳]／福音館書店／2,750円
鷗外の最初期の漢文翻訳『盗侠行』はこの本に収録の『隊商』の抄訳です。

ファウスト　第一部　第二部
ゲーテ[著]／池内紀[訳]／集英社文庫／（第一部）935円／（第二部）1,100円
鷗外にも造詣が深い著者の訳したファウストです。鷗外は日本で初めてファウストを全訳しました。

モルグ街の殺人・黄金虫　ポー短編集IIミステリ編
大渦巻への落下・灯台　ポー短編集IIISF&ファンタジー編
エドガー・アラン・ポー[著]／巽孝之[訳]／新潮文庫／（Ⅱ）605円／（Ⅲ）539円
エドガー・アラン・ポーを鷗外が翻訳していたなんて少し意外。『モルグ街の殺人』を『病院横丁の殺人犯』、『大渦巻への落下』を『うづしほ』と鷗外は訳しています。

ロ語訳　即興詩人
アンデルセン[原作]／森鷗外[文語訳]／安野光雅[口語訳]／山川出版社／2,090円
鷗外訳『即興詩人』を愛する安野光雅の抄訳。挿絵とともにお楽しみください。

チリの地震　クライスト短篇集
ハインリヒ・フォン・クライスト[著]／種村季弘[訳]／河出文庫／880円
鷗外の初期の翻訳作品『地震』『悪因縁』を、種村季弘訳で読むことができます（『チリの地震』『聖ドミンゴ島の婚約』）。

サロメ
ワイルド[著]／平野啓一郎[訳]／光文社古典新訳文庫／858円
・芸術文化に多大な影響を及ぼした『サロメ』を日本で初めて紹介したのは鷗外。平野啓一郎が自身初の翻訳に挑みました。
・あのサロメもまた、鷗外は翻訳しています。注が充実していて、ところどころで鷗外訳についても触れられています。

三つの物語
フローベール[著]／谷口亜沙子[訳]／光文社古典新訳文庫／990円
鷗外も訳したフローベール『聖ジュリアン伝』収録。

リップとイカボッドの物語
「リップ・ヴァン・ウィンクル」と「スリーピー・ホローの伝説」
ワシントン・アーヴィング[著]／齊藤昇[訳]／三元社／1,760円
『リップ・ヴァン・ウィンクル』に鷗外がつけたタイトルは『新浦島』。日本でおなじみのお伽話に似た話がアメリカにも存在していました。

舞姫エトセトラ

当時も現在も話題をさらう太田豊太郎

世界文学のなかの『舞姫』理想の教室
西成彦／みすず書房／1,760円
海外作品との比較や、いろんな角度から考える『舞姫』が刺激的です。

みんなの図書室
小川洋子／ＰＨＰ文芸文庫／649円
ラジオ番組を書籍化したもの。次の世代にも残したい文学作品として『舞姫』が紹介されています。古典から現代、国内から海外まで50点を紹介。

森鷗外『舞姫』を読む
清田文武[編]／勉誠出版／6,600円
丸ごと『舞姫』についての本。もはやミステリーを読むような感覚。

世界でただ一つの読書
三宮麻由子／集英社文庫／704円
目が不自由な著書による読書案内。音を感じる読書体験に文語体で書かれた『舞姫』はピッタリかも。

「舞姫」の主人公をバンカラとアフリカ人がボコボコにする最高の小説の世界が明治に存在したので20万字くらいかけて紹介する本
山下泰平／柏書房／1,980円
奇抜なタイトルとは裏腹に、明治に存在していたエンターテイメント本について真面目に紹介。その中に『舞姫』のパロディらしきものが…。

鷗外の恋　舞姫エリスの真実
六草いちか／河出文庫／1,375円
『舞姫』は小説で創作と分かっているけれど、好奇心を刺激するエリスの存在。

読書嫌いのための図書室案内
青谷真未／早川書房／770円
『舞姫』を授業で学んだ時、太田豊太郎は女子高生によって容赦なく叩かれていました。当時この本を読んでいたら豊太郎はひどい人に終わらず、もう少し理解しようとしたかもしれない。

二葉亭四迷、森鷗外の代表作を読み直す　近代小説の出発、立身出世主義の時代の失業と恋愛
小森陽一／かもがわ出版／1,320円
ほぼ同時期に出版された『浮雲』と『舞姫』。授業を受けるように少しずつ解説を交えて読み進めます。

炎上案件　明治／大正　ドロドロ文豪史
山口謠司／集英社インターナショナル／1,760円
文豪たちの闇？から見る文豪史。文豪にとってはそれすらも作品です。

価格は全て税込です

鷗外文学5つのポイント

［創作小説］ 1888年、留学から帰国してすぐ、ドイツでの経験をもとにした小説『舞姫』『うたかたの記』『文づかひ』を相次いで発表、いずれも和文調と漢文調とを織り交ぜた格調高い雅文体を用いて書かれている。その後20年ほどの時間を経て、千駄木団子坂上に住まいを定め、小説『半日』を発表すると、『青年』『雁』など同時代の日本を舞台にした口語体小説をたて続けに発表していく。

現代語訳 舞姫
森鷗外／井上靖［訳］／ちくま文庫／638円

鷗外といえば『舞姫』。でもやっぱり妊娠させた恋人を捨てて帰国したというストーリーと雅文体は近寄りがたい。この文庫は、小説家・井上靖の現代語訳と鷗外研究者・山崎一穎の解説で、作品にぐっと近づけます。陸軍軍人という立場もありながら、鷗外が『舞姫』に世界の中の近代日本を色濃く反映させていることに驚くでしょう。

うたかたの記
森鷗外／岩波文庫『舞姫　うたかたの記　他三篇』収録／572円

ルートヴィヒ2世（ノイシュヴァンシュタイン城を建てた王）の湖水での変死事件を背景に、日本人の画家とドイツ人のモデルとの恋愛が語られています。

文づかひ
森鷗外／岩波文庫『舞姫　うたかたの記　他三篇』収録／572円

気持ちのすすまぬ男との結婚を拒否し、修道院に入ることを決意したイイダ姫が、日本人の士官にその経緯を語る……鷗外ドイツ三部作の一編。

ヰタ・セクスアリス
森鷗外／新潮文庫／407円

原語で書けば『Vita sexualis』（ラテン語です）…人間の本質を醜いものとあからさまに描く「自然主義文学」にやわらかく対抗した鷗外の半自伝的小説です。

杯
森鷗外／新潮文庫『山椒大夫・高瀬舟』収録／539円

・文庫本でわずか8ページのこの短い物語には、鷗外が描こうとした〈女性〉の象徴のような一人の少女が語られています。
・銀杯で泉の水を飲む七人の美少女。そこにあらわれた第八の少女が放つ台詞「わたくしはわたくしの杯で戴きます」に、身の程をわきまえた少女だと感心するのか、嫌味な子だなと嫌悪するのか、読者の時々の気持ちが左右する作品です。

青年
森鷗外／岩波文庫／814円

人はどのようにして他者と出会い、そして孤独を知るか、その過程を一人の若者の姿の中に見つめることができます。

桟橋
森鷗外／皓星社『シリーズ紙礫10　横浜』八木澤 高明［編］収録／2,200円

繰り返される「桟橋が長い長い」の一文が海の漣のようで詩的です。感情を抑えて夫を見送る妻の姿が切なく感じます。同書には鷗外作詞『横浜市歌』も収録されています。

普請中
森鷗外／新潮文庫『山椒大夫・高瀬舟』収録／539円

幾重にも重なる「普請」への想いのほろ苦さが好きです。「夜空ノムコウ」の歌詞が浮かぶ…

身上話
森鷗外／岩波書店『鷗外近代小説集　第二巻』収録／4,180円

大原の宿屋に勤める花。花に好意的な気持ちを持つ圭一。花が想いを寄せる辻村。圭一の部屋という密室で、花と圭一の会話を中心に構成された物語は、意外な展開を迎えます。まるで映画のような短編小説です。

カズイスチカ
森鷗外／新潮文庫『山椒大夫・高瀬舟』収録／539円

今日、私たちは「病」や「死」にどう向き合えばよいのか、老医師と若い医師の静かな対話を通して改めて考えてみましょう。

雁
森鷗外／新潮文庫／506円

本郷から不忍池へと下っていく無縁坂…その坂の途中で交差する男女の、始まる前に終わった恋の物語、切ない読後感がとてもいい。

［翻訳］ 堪能な語学や留学経験を生かして様々な翻訳を行った。アンデルセン『即興詩人』、シェイクスピア『マクベス』、ゲーテ『ファウスト』などの古典的な作品、あるいは同時代の西洋文学なども翻訳した。文芸雑誌の読者投票では翻訳家として1等当選している。記念館地下の胸像はそれを記念するものである。

即興詩人（全2冊）
アンデルセン［作］／森鷗外［訳］／岩波文庫／2022年6月復刊予定

文章が美しいと言われる鷗外翻訳を味わえる。馴染みの薄い文語体の響きを楽しみ、繰り返し読むことで、突然内容が入ってきて世界が広がる瞬間があります。

森鷗外の『智恵袋』
小堀桂一郎［訳・解説］／講談社学術文庫／1,639円

鷗外が翻訳した『智恵袋』『心頭語』『慧語』三種の箴言集（格言、教訓、処世訓）をまとめたもの。全集でしか通読できないものが、文庫で読めるのがまず魅力。口語訳を読んでから、鷗外の原文を読んで、時には音読して楽しんでいます。

百年文庫33　月
ルナアル、リルケ、プラトーノフ［著］岸田国士、森鷗外、原卓也［訳］／ポプラ社／825円

とても短い作品ですが、ゆったりした時間の流れが味わえます。鷗外訳、ドイツの作家リルケ『老人』収録しています。

百年文庫 56　祈
久生十蘭、チャペック、アルツィバーシェフ［著］石川達夫、森鷗外［訳］／ポプラ社／825円

あまり読む機会のない鷗外の短編翻訳小説が収録されています。鷗外訳、アルツィバーシェフ『死』収録。

［詩歌］ 森鷗外は詩歌を創作した。軍医として日露戦争に赴いた際には、戦地で詩や歌を詠み、戦地から戻るとそれをまとめた『うた日記』を刊行した。また、自宅で歌会を開き、佐佐木信綱、与謝野鉄幹など既に名の知れた歌人、石川啄木、斎藤茂吉など若い歌人も参加した。

森鷗外の『うた日記』
岡井隆／書肆山田／3,520円

日露戦争の戦場にあって、鷗外は、日記を記すように詩を作り歌を詠みました。そこに込められた思いを歌人の岡井隆が読み解いていきます。

鷗外「奈良五十首」を読む
平山城児／中公文庫／1,100円

京都に生まれて鎌倉で育ち、研究分野も上代文学と近代文学、そんな著者が、若き日に医学と文学を西洋に学んだ鷗外の、晩年に古都奈良で詠んだ歌を鑑賞します。

森鷗外　短歌という詩型に生涯愛情を持ち続けた文豪
今野寿美／笠間書院／1,430円

小説家と知られる鷗外は、多くの歌を残した歌人でもありました。鷗外の歌を、歌人の今野寿美氏が選び抜いて鑑賞してくれています。

森鷗外の百首　テエベス百門の抒情
坂井修一／ふらんす堂／1,870円

著者は情報工学の研究者そして歌人。「文」と「理」とのバランスを考える著者が、かつて「文」と「理」のバランスを生きた鷗外の「歌」を読み解きます。

［歴史小説］ 1912年、明治天皇大葬の日、陸軍大将乃木希典夫妻殉死。かねてより交際のあった乃木希典の死に衝撃を受けて書いた「興津弥五右衛門の遺書」を、1913年雑誌『中央公論』に発表。それをきっかけにして「阿部一族」「山椒大夫」「高瀬舟」などの歴史小説を発表するようになる。

安井夫人
森鷗外／筑摩書房『ちくま日本文学017森鷗外』収録／968円

安井夫人とは、イケメンではないが才能のある安井息軒のもとに嫁いだ佐代のこと。佐代が献身的な妻であったという事実に添えられた「お佐代さんは必ずや未来に何物をか望んでいただろう」という鷗外の解釈が、何だかうれしくて勇気をもらえます。

山椒大夫
森鷗外／岩波文庫『山椒大夫・高瀬舟　他四篇』収録／572円

小学生の頃初めて読み、安寿の行動に衝撃を受けました。一瞬で大人になる安寿に今も心を奪われます。

じいさんばあさん
森鷗外／新潮文庫『阿部一族・舞姫』収録／572円

この作品を繰り返し読んでいると、やがて、「青春」は若者だけの特権ではないのだと思うようになります。

最後の一句
森鷗外／岩波文庫『山椒大夫・高瀬舟　他四篇』収録／572円

主人公の少女いちの一句「お上のことにはまちがいはございますまいから」が有名な作品。そのため、いちが末恐ろしい少女のように思われていますが、落ち着いて読むと、この一句を受け取った大人が勝手に驚愕しているだけなのです。大人が読み直したい作品。

［史伝］ 1916年長年勤めた陸軍を去る。翌年宮内省帝室博物館総長兼図書頭に就任。この時期を前後して『渋江抽斎』『伊澤蘭軒』『北條霞亭』などの伝記を新聞に連載し始める。これらの作品を歴史小説と区別して「史伝」と呼ぶ。

渋江抽斎
森鷗外／岩波文庫／935円

鷗外史伝三部作の第一作。史実を淡々と描写する史伝は、なかなか近寄り難いかもしれません。でも文化2年生まれの渋江抽斎と文久2年生まれの鷗外は年の差58歳。鷗外が自分のおじいさん世代を調べてると思ったら少しほほえましいかも。

鷗外作品を楽しむための副読本として

森鷗外
石川淳／岩波文庫／660円

書き残す、とはこういう事か。SNSなどなかった80年前の書きぶりは気持ちがいいほど、冒頭から著者の鷗外愛が直球で伝わる一冊。

新潮日本文学アルバム　1　森鷗外
新潮社／1,320円

鷗外の生涯にかかわるすべてに近いもの（作品、遺品、手紙、あらゆるもの）の写真と解説が掲載されておりとても貴重でわかりやすい一冊。

都市空間のなかの文学
前田愛／ちくま学芸文庫／1,870円

この書の中の「Berlin　1888」は、高等学校の国語の『舞姫』の授業を変えてしまいました。鷗外留学時のベルリンの街を思い描くこともできます。

幻景の明治
前田愛／岩波現代文庫／1,100円

まさに幻の街が浮かび上がってくるような解説。作品世界を散歩する感覚で楽しめました。

鷗外・茂吉・杢太郎「テエベス百門」の夕映え
岡井隆／書肆山田／5,280円

医学を学び、詩人・歌人であった「森鷗外、齋藤茂吉、木下杢太郎」の三人を、医者であり、現代短歌の革新者でもあった岡井隆が論じていきます。

森鷗外　国家と作家の狭間で
山崎一穎／新日本出版社／2,090円

軍医と作家、両局面から森鷗外に迫る、鷗外研究者による他では読めない評伝です。

対談紀行　名作のなかの女たち
瀬戸内寂聴、前田愛／岩波現代文庫／1,342円

雑誌の連載企画で、作家・瀬戸内寂聴と国文学者・前田愛が小説の舞台を実際に訪ねて対談したもの。「『雁』と森鷗外」の項では、当館の前身・文京区立鷗外記念本郷図書館にも立ち寄ってます。鷗外の生活圏を歩く二人の対談は、鷗外を知る一歩にもおすすめ。

作家論　新装版
三島由紀夫／中公文庫／858円

・「鷗外とは何か？」という一文から始まるミシマによる鷗外論。鷗外の魅力のガイド本として。
・三島由紀夫による近代作家評論集。最初の人物が「森鷗外」から始まります。古いけどすばらしい、三島の鷗外に対する畏敬の思いが読み取れます。

人と作品11　森鷗外
福田清人［編］／河合靖峯［著］／清水書院／1,320円

森鷗外の伝記。鷗外初心者に向けて。

この百年の小説　人生と文学と
中村真一郎／講談社文芸文庫／2,090円

“青春”“社会”など部類ごとに近代小説を解説。各部類の顔ぶれが面白い。時代とともに変化していく小説が興味深いです。

本の読み方　スロー・リーディングの実践
平野啓一郎／ＰＨＰ文庫／748円

タイトルそのもの、ゆっくり味わって読む読書のすすめです。実践編では、鷗外『高瀬舟』含む8作品の読み解き方を教えてくれます。ぜひゆっくり読んでマスターしてください。

日本近代文学入門　12人の文豪と名作の真実
堀啓子／中公新書／990円

文豪の生活を知り少しだけ身近に感じると、名作を読むプレッシャーから解放される気がします。

地質学者ナウマン伝　フォッサマグナに挑んだお雇い外国人
矢島道子／朝日新聞出版／1,870円

鷗外がドイツで論争した人物として知られるナウマン。日本での業績と生涯を追う本格的な評伝です。

谷根千のイロハ
森まゆみ／亜紀書房／1,430円

鷗外が住んだ町の歴史を知りたい方へ。

文章読本　新装版
三島由紀夫／中公文庫／770円

文章の美しさが、引用をまじえて紹介されています。三島の美意識に彩られた文章論、鷗外『寒山拾得』の「水が来た」の解説に注目です。

カラー版　文豪たちの西洋美術　夏目漱石から松本清張まで
谷川渥／河出書房新社／2,200円

小説に登場する西洋美術を絵画の図版とともに紹介する1冊。鷗外『青年』で主人公純一がお嬢さんとともにみた絵は…。鷗外周辺の人々も登場します。

切腹考　鷗外先生とわたし
伊藤比呂美／文春文庫／814円

伊藤比呂美の、鷗外愛の詰まった1冊。伊藤版、『阿部一族』に注目です。

テーマ別！鷗外作品参加のアンソロジー

三田文学創刊100年　三田文学名作選
三田文学編集部［編］／三田文学会／1,760円

「三田文学」創刊100年を記念して発行された本書には、鷗外の短編小説『普請中』のほか、鷗外と親交の深かった文学者や、鷗外の長女・茉莉の著作が掲載されています。この一冊で近現代の珠玉の文学が味わえます。

日本近代随筆選　1　出会いの時
千葉俊二、長谷川郁夫、宗像和重［編］／岩波文庫／891円

随筆選なので、小説が苦手な方も作家との新たな出会いにつながるかもしれません。

教科書名短篇　人間の情景
中央公論新社［編］／中公文庫／770円

中学教科書の掲載作品から選ばれた12篇。教科書で読むか読まないかでさらに面白さが違う気がするのが不思議です。『最後の一句』収録。

文豪と酒　酒をめぐる珠玉の作品集
長山靖生［編］／中公文庫／902円

“酒”をテーマに近代作家22名の競演が味わえます。小説だけでなく、詩も収録されているのが特徴的です。本書を肴に、お酒が進みそうです。『うたかたの記』収録。

東京百年物語　2　一九一〇～一九四〇
ロバートキャンベル、十重田裕一、宗像和重［編］／岩波文庫／814円

100年間の東京の変遷、広がっていく東京を小説を通して追体験することができます。『普請中』を収録。

文豪と東京　明治・大正・昭和の帝都を映す作品集
長山靖生［編］／中公文庫／902円

様々な作家が書いた東京の風景、アンソロジー集です。鷗外『普請中』、その他、夏目漱石、田山花袋、幸田露伴、泉鏡花などの作品を収録しています。

一日一文　英知のことば
木田元［編］／岩波文庫別冊／1,210円

鷗外は7月9日忌日に登場。人生に生きる勇気がもらえる一冊！！

ペンギン・ブックスが選んだ日本の名短篇29
ジェイ・ルービン［編］／村上春樹［序文］／新潮社／3,960円

「日本と西洋」「災厄天災及び人災」など7つのテーマに分かれて選ばれた短編29作品。鷗外は『興津弥五右衛門の遺書』が収録されています。

文豪と食　食べ物にまつわる珠玉の作品集
長山靖生［編］／中公文庫／902円

“食べ物”というテーマが手に取りやすいアンソロジー。鷗外は『牛鍋』を収録。

文豪と女　憧憬・嫉妬・熱情が渦巻く短編集
長山靖生［編］／中公文庫／902円

“女”をテーマに集めたアンソロジー。読み進めていくごとに女が成長していきます。鷗外は短編『杯』を収録。

須賀敦子が選んだ日本の名作　60年代ミラノにて
須賀敦子［編］／河出文庫／1,540円

須賀敦子さんがイタリア人に向けて選んだ日本の名作アンソロジー。いわゆる名作、だけではないのは、薦めたい人を想定して編まれた親密さを感じます。『高瀬舟』収録。

文豪たちの妙な話　ミステリーアンソロジー
山前譲［編］／河出文庫／979円

推理小説家ではない作家の小説から“探偵小説味”のある話が集められています。何気なく読んでいた話だったのに、目線を変えたら急にサスペンスの香りがしてきます。『カズイスチカ』収録。